

1年生の求差の問題について

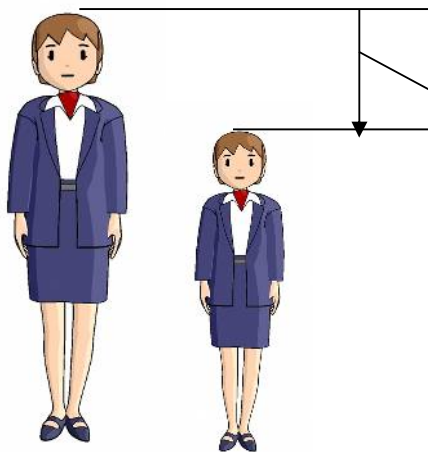
小見出しに「ちがいはいくつ」とあるのに「どちらがいくつおおい」という解答を求められている。「どちらがいくつおおい」という問いかけでは、「が個多い」と2つの要素で答えなければならない。「ちがいは」という問いかけでは、「個」と1つの要素で答えればよい。「ひきざん」の指導ということを考えると

1. 「ちがいは」の方が簡単である。
2. どちらが多いか少ないかは、図や絵で子どもは理解している。

そこで、

1. 「ちがい」の概念をしっかりおさえる。

子どもを前に出して、「先生と〇〇君の背の高さの違いは？」と問いかけて、「ちがい」がどの部分であるかをしっかり押さえる。



「ちがいは」この部分であることを押さえておく。

2. 答えが出てから「どちらがおおいのかな?」「どちらが少ないのかな?」と質問をしておさえておく。

- ※「どちらが」を強調するため、自転車と三輪車を比べたり、桃とリンゴを比べたりしている場合がある。やはり、「比較」は、同質同種のものの方がいいと思う。
- ※異種のものでも「ブロック（半具体物）」に置き換えれば比較できるということを理解させることも大切であろう。
- ※「ひきざん」の意味として「求残」「求差」をしっかりおさえた後、計算練習においては、「求残」の考え方に統一した方が分かりやすい。